

# 研究資源共有化システム ニュースレター

第1号

2010年  
10月29日

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 研究資源共有化事業委員会  
Inter-University Research Institute Corporation National Institutes for the Humanities The Committee of Resource Sharing Project

## 研究資源共有化システム ニュースレターの刊行

研究資源共有化事業委員会

大学共同利用機関法人人間文化研究機構は、2005年度より、国立歴史民俗博物館・国文学研究資料館・国際日本文化研究センター・総合地球環境学研究所・国立民族学博物館のデータベースを横断検索する統合検索システム(Integrated Retrieval System for the Humanities : nihuIRS)、時空間解析システムを開発し、統合検索システムを2008年4月に公開しました。また、研究者参加型のnihuONEシステムも2008年12月に公開しました。統合検索システムは、2010年7月より、国立国会図書館デジタルアーカイブポータルPORTAとの双方向連携を開始し、12月には、新たに国立国語学研究所のデータベースも統合検索システムに参加します。時空間解析システムも、9月より解析ツールのフリーソフトウェアのサービスを開始しました。

**研究資源共有化システムURL ▶ <http://www.nihu.jp/sougou/kyoyuka/system/index.html>**

このような、人間文化研究の発展のための情報資源を提供する研究資源共有化システムの活動を、学界・社会の皆様にお知らせするために、このほどニュースレターを刊行することとしました。

### 統合検索システム 検索対象データベース一覧

#### ■ 国立歴史民俗博物館

館蔵資料  
館蔵中世古文書  
館蔵近世・近代古文書  
館蔵紀州徳川家伝来楽器  
館蔵武器武具(実物資料)  
館蔵武器武具(文献史料)  
館蔵錦絵  
館蔵「懐溜諸屑」  
館蔵野村正治郎衣裳コレクション  
館蔵染色用型紙  
館蔵縄文時代遺物  
館蔵装身具  
兼頭脚記  
歴博図書目録  
日本荘園  
荘園関係文献目録  
自由民権運動研究文献目録  
棟札  
古代・中世都市生活史  
江戸商人・職人  
中世制札(制札)  
中世制札(文献)  
中世地方都市(都市)  
中世地方都市(文献)  
陶磁器出土遺跡(遺跡)  
陶磁器出土遺跡(文献)  
土偶  
近世窯業遺跡  
近世窯業関係主要文献目録  
城館城下発掘(遺跡)  
城館城下発掘(文献)  
弥生石器遺跡(遺跡)  
弥生石器遺跡(図面)  
東国板碑(遺跡等)  
東国板碑(板碑)  
東国板碑(文献)  
民俗誌  
日本民俗学文献目録  
宮座研究論文  
民俗語彙  
俗信

#### ■ 国文学研究資料館

収蔵アーカイブズ情報  
吾妻鏡  
絵入り源氏物語  
二十一代集  
日本古典文学本文  
図書・雑誌所蔵目録  
近代文献情報(近代書誌・近代画像)  
コーニッキー版 欧州所在日本古書総合目録  
古筆切所収情報  
「史料所在情報・検索」システム  
館蔵和古書画像  
新奈良絵本画像  
歴史人物画像  
国文学論文目録  
近代文献情報(明治期出版広告)  
史料情報共有化  
和刻本漢籍総合  
館蔵神社明細帳  
連歌・演能・雅楽  
古典学統合百科(伝記解題)  
古典学統合百科(地下家伝・芳賀人名辞典)  
日本古典籍総合目録

#### ■ 国際日本文化研究センター

貴重書  
西洋医学史古典文献(野間文庫)  
宗田文庫図版資料  
日本研究機関  
絵巻物  
怪異・妖怪絵巻  
近世風俗図会  
ちりめん本  
米国議会図書館所蔵奈良絵本  
平安京都名所図会  
平安人物志短冊帖  
平安人物志  
米国議会図書館所蔵浮世絵  
都年中行事画帖  
Japan Review  
日文研フォーラム報告書  
日本研究  
於竹大日如来縁起絵巻  
怪異・妖怪伝承  
季語検索

近世崎人伝(正・続)  
考古学GIS  
図録 米欧回覧実記  
錦絵観音霊験記の世界  
俳諧  
連歌  
和歌  
在外日本美術  
日本関係欧文図書目録  
所蔵地図

#### ■ 総合地球環境学研究所

世界地図  
所蔵図書  
西表文献  
映像資料

#### ■ 国立民族学博物館

標本資料目録  
標本資料詳細情報  
標本資料記事索引  
映像資料目録  
ビデオテーク  
音楽・芸能の映像  
カウフマン・アフリカ古地図コレクション  
音響資料目録  
音響資料曲目  
図書目録  
雑誌目録  
中西コレクション—世界の文字資料—  
衣服・アクセサリー  
身装文献

#### ■ nihuONE

東洋文庫・中華教育界目録  
生態史写真資料  
生態史文献資料

#### ■ 国立国会図書館PORTA

近代デジタルライブラリー  
貴重書サンプル  
貴重書画像  
NDL蔵書目録(和図書・和雑誌)  
カレントアウェアネス

# 統合検索システムとPORTAとの連携

人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館  
安達 文夫

## 人間文化研究機構の統合検索システム

人間文化研究機構を構成する各機関では、それぞれの研究分野に関連する実物資料やマイクロフィルムを始めとする研究資源を有し、これらを共同利用に供するため、その目録情報に資料の画像を付してデータベースとして公開するとともに、電子化した全文テキスト、共同研究の成果、ならびに研究分野毎の文献目録をデータベースとして公開してきた。

同機構では、これらの研究資源を探しやすくすることをねらいとし、研究資源共有化統合検索システム(以下、機構統合検索システム)を構築し、2008年4月より公開している。

統合検索の特徴は、個々のデータベースの所在や操作方法を意識することなく、共通の操作で検索できることにある。そして、複数のデータベースをまとめて一回の操作で検索できる点が有効である。加えて、人間文化の研究分野で重要な時間と空間の情報を対象とする統合的な検索を実現している。

## 国立国会図書館のデジタルアーカイブポータル PORTA

国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)は、国内の電子的情報資源や情報提供サービスの利活用を促進することを目的として構築され、2007年10月より一般公開されている。

国立国会図書館に加え、地方自治体の図書館、大学の図書館や研究所、あるいは政府機関など様々な機関・組織が公開するデジタルアーカイブを中心に、一般の利用者にも分かりやすい図書検索に似た操作で統合検索を提供している。

## 機構統合検索システムとPORTAの連携

利用者からの検索対象を拡大して欲しいとの要望に応えるため、二つのシステムが提供する情報資源を互いに検索できるよう実現し、この7月14日より相互の連携を開始した。

機構統合検索システムでは、PORTAから国立国会図書館が公開している16のデータベースのうち5を当初の連携対象としている。PORTAは機構統合検索システムが公開する中から100のデータベースを連携対象としている。これにより、PORTA全体の対象を、それまでの倍以上に増やすことができた。今後、それぞれに、連携するデータベースを増やしてゆく予定である。

## 連携による利用者のメリット

二つのシステムの相互の連携により、PORTAの利用者にとって、人間文化研究機構が公開する研究資源の情報をデジタルアーカイブとして一斉に検索することが可能となる。機構統合検索システムを利用する研究者にとって、国立国会図書館、ゆくゆくはPORTAに繋がる機関が提供するデジタルアーカイブを含めて研究資源を探し出す機会が増大する。

統合検索システムの利用の分かりやすい例として、「錦絵」をキーワードに検索したデータベース毎のヒット件数表示画面を図に示す。機構の幾つかの機関と国立国会図書館に錦絵に関連する情報があることが示される。気づかなかったところに資料の情報があることを発見できる。

探す資料に沿って、例えば「錦絵 国芳」とキーワードを絞ることにより、図の例のように、幾つかの機関にある資料の情報を画像付きで見出すことができる。



# 研究資源共有化事業における時空間研究開発

人間文化研究機構 総合地球環境学研究所  
関野 樹

2010年9月10日、国立国語研究所で開催された人間文化研究情報資源共有化研究会にあわせて時空間情報解析ソフトウェアGT-MapおよびGT-TimeがWeb上で公開された(<http://www.chikyu.ac.jp/nihudb/gt-tools/>)。これらのソフトウェアは、人間文化研究機構の研究資源共有化事業の中で統合検索システムの構築と並行して進められている時空間研究開発の成果の一つである。

今回公開されたGT-MapとGT-Timeは、それぞれWebページよりダウンロードし、利用者のパソコン(Windows)にインストールして利用する(無償)。GT-Mapは地図を使った空間解析を主に担っており、近年発達している地理情報システム(Geographic Information System: GIS)と同様にバッファリング(指定された場所から一定の距離にある領域を求める解析)やコロプレスマップ(場所に関連付けられた値に従って塗り分けられた地図)の作成など、基本的な空間情報処理機能を備えている。さらに、時間解析に関する機能を備えていることが大きな特徴であり、それぞれのレコードが持つ時間データに従って地図上で表示や解析を行う時間範囲を指定することができる。

GT-Timeは時間データに基づく情報の表示や解析を行うソフトウェアで、年表(文字列データ)やグラフ(数値データ)を使った時系列データの可視化に加え、クリッピング(特定の領域にあるレコードを抜き出す操作)やマージ(二つ以上のレコードセットから新たなレコードセットを作成する操作)のようなGISと同等の解析環境を時間軸において提供する。また、人文科学の研究で必要となる複数の暦に対応できることも特徴の1つとして挙げられるだろう。

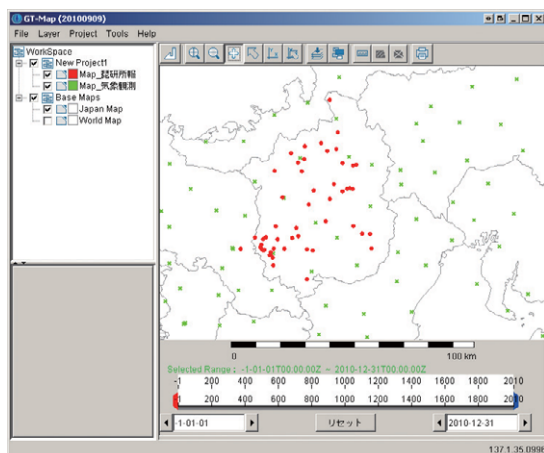
これらのソフトウェアは、様々な研究資源を時空間の視点から多角的に統合する解析環境を提供することにより、研究資源の共有化を検索や可視化からさらに一步先へ進めることが狙いである。これを推し進めるため、時空間研究開発の中では時空間に関する基盤情報を構築している。例えば、地理情報を扱うためにはベースとなる地図(いわゆる白地図)が必要であり、また、地名を地図上の座標(緯度経度など)に対応させることが出来なければデータ構築もままならない。このため本事業では、明治期の地名を現在の緯度経度に置き換える地名辞書データや各種の暦の相互変換を実現する暦日テーブルの整備が進められている。

今後は、時空間データのコンテンツからの採取および標準規格への対応などが主要な課題である。これまでの時空間データの多くは資料のメタデータを使って地図や年表上に表示されてきた。しかしながら、文書等の本文中にも地名や日付などの時空間に関連した記述が数多く含まれてい

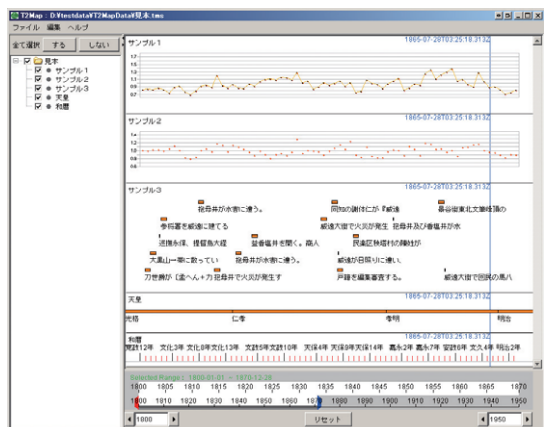
る。この記事をとれば、メタデータだけを扱えばニュースレターの発行日が時間情報として用いられるが、実際に重要なのは本文冒頭で述べたGT-Map/Timeの公開日である。コンテンツからの時空間情報を効率的に利用するための方法としては、TEI(Text Encoding Initiative)などの応用が検討されている。

また時空間情報については、地理情報の分野を中心にISO 19100シリーズ(国内ではJIS X 7100シリーズ)などによる時空間データのモデル化やメタデータ構造の標準化が進められている。これらに対応することにより、組織の枠を超えて様々な時空間情報同士の連携が図られることが期待される。

なおこの時空間研究開発は、京都大学地域研究統合情報センターの共同研究、有志の研究組織であるH-GIS研究会などの協力を得ながら進められている。



【図1:GT-Map】空間情報解析を担うソフトウェア。画面下部にある目盛りが表示や解析を行う時間範囲を設定するインターフェース(タイムスライダ)



【図2:GT-Time】時間情報解析を担うソフトウェア。タイムスライダはGT-Mapと共通。年表とグラフを同時に扱うことが出来る。一番下に和暦による時間軸目盛りが表示されている。

## ■ 統合検索システム利用経験談 1 ■

人間文化研究機構 石上 英一

自らの不明を恥じるべき経験を記すことを通して、研究に役立つ統合検索システムの利用事例を紹介したい。つい最近のことであるが、前田育徳会尊経閣文庫所蔵の重要文化財である『新猿楽記』の3写本(弘安3年〔1280〕本、康永3年〔1344〕本、古鈔本〔奥書部分が欠失〕)の影印版(『尊経閣善本影印集成』42、八木書店、2010年6月)の解題を執筆する機会を得ての経験である。『新猿楽記』については、平安漢文学史の川口久雄氏が校訂・注解し解題を記した『東洋文庫』424(平凡社、1983年)が依拠すべき研究であり、筆者もそれに従い解題の執筆を進めていた。しかし、川口氏の詳細な解題を読んでも、分らないことがいくつかあった。

その一つは、康永3年本の本文第一紙の首題下と、巻末の尾題下とにある「青松」の墨書であった。卷子の新補表紙見返しに「大府卿清原」とあるのは明経道の清原国賢(1544年生、1607年薨)なので、「青松」は国賢の雅号であることが予想された。30余年前、古代の官職唐名の体系を調べる必要から京都大学附属図書館所蔵の清原家家学書の『拾芥抄』を閲覧したことがあったので、同館の電子図書館の「清家文庫目録」とWEB展示会で、青松の署名のある典籍を調べた。「青松」の署名のある典籍は、国立国会図書館所蔵清家本にも1点あり、京大の清家文庫本19点と合わせて、20点あることがわかった。しかし、「青松」の署名を、父枝賢のものとする先学の説もあり、国賢のものとは、すぐには判断できなかった。そのときどういう流れの中であったか、統合検索システムで「青松」を調べたところ、国立歴史民俗博物館「館蔵資料データベース」に「青松軒法名常貞明経博士従三位清原国賢朱印」の本奥書のある「祓八ヶ口訣・諸神系図譜・神道」を見出した。早速、歴博で同書を閲覧させていただき、「青松」が国賢の号であることを確認した。

もう一つ。川口氏の校訂本では、弘安9年奥書本(実は尊経閣文庫の古鈔本が弘安9年奥書本であり、前田綱紀の入手前に奥書部分が欠失)の孫本である陽明文庫本(近衛基熙が書写させたもの)の奥書が解題で紹介され、本文校訂にも陽明文庫本(写本による)が使用されている。筆者が解題を書いている最期の段階で、近衛基熙が前田綱紀が入手する前に康永3年本も見ていたことが記される陽明文庫本の奥書を見たいと思ったとき、統合検索システムで念のために「新猿楽記」を検索したところ、国文学研究資料館に陽明文庫本のマイクロフィルムがあることが「古典籍総合目録データベース」でわかった。早速、国文学研究資料館図書室に赴き、マイクロフィルムを閲覧させていただき、なんとか解題に陽明文庫本奥書を利用することができた。

最初からきちんと準備していれば早くに国文研でマイクロフィルムを閲覧していたであろうし、また清原氏についての知識があれば、「祓八ヶ口訣・諸神系図譜・神道」の本奥書を見ずとも青松は国賢だと判断していたであろう。己が不明を恥じるが、不明の身として、統合検索システムで知識を得ることができたこと、速やかに歴博と国文研で貴重資料を閲覧できたことに、一研究者として感謝している。知識が足りないなら足りないで、なぜ早くに統合検索システムで『新猿楽記』に関わる検索を試みてみなかったのかとも反省する次第である。

## 人間文化研究情報資源共有化研究会報告集 1 2010年3月刊

### 【目次】

研究資源共有化事業の歩み(2000~2008年度) 人間文化研究機構 安永 尚志

国立国語研究所の言語資源 国立国語研究所 前川 喜久雄

統合検索システムの概要と今後の展開 国立歴史民俗博物館 安達 文夫

時空間システムの成果と今後の展開  
総合地球環境学研究所 関野 樹/京都大学 柴山 守  
京都大学 原正 一郎/国立民族学博物館 久保 正敏

広域アジアにおける地域環境情報ネットワークの構築とデータベースの共同利用  
総合地球環境学研究所 秋道 智彌

東京大学史料編纂所における横断検索システムの構築I  
人間文化研究機構・東京大学 石上 英一

東京大学史料編纂所における横断検索システムの構築II  
東京大学 近藤一

外邦図研究と外邦図デジタルアーカイブの構築

大阪大学 小林茂/東京大学 山本健太

京都大学研究資源アーカイブの構築 京都大学 五島 敏芳

「沖縄の歴史情報研究」の成果と課題 琉球大学 豊見山 和行

文字字形総合データベース作成の試み  
東京大学 井上聡/奈良文化財研究所 馬場基

新CiNiiが招く学術知の世界 国立情報学研究所 大向 一輝

PORTAによるデジタルアーカイブの連携について 国立国会図書館 柴田昌樹

沖縄の歴史情報研究 大阪国際大学 桶谷猪久夫

正倉院文書データベース(SOMODA)の特徴と課題 花園大学 後藤真

古事類苑全文データベースの構築について  
国際日本文化研究センター 山田奨治/国文学研究資料館 相田満

\*第1回・第2回・第3回研究会(2010年5月29日、7月16日、2011年1月29日)の報告を収録。報告集は、2010年秋に、人間文化研究関係の大学・研究所等諸機関に配布します。

## CONTENTS

研究資源共有化システムニューズレターの刊行	1
統合検索システム検索対象データベース一覧	1
統合検索システムとPORTAとの連携 安達 文夫	2
研究資源共有化事業における時空間研究開発 関野 樹	3
統合検索システム利用経験談 1 石上 英一	4
人間文化研究情報資源共有化研究会報告集 1	4

## 研究資源共有化システム ニューズレター 第1号

発行日 2010(平成22)年10月29日

発行・編集 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
研究資源共有化事業委員会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 神谷町セントラルプレイス2階  
TEL 03-6402-9200(代表)